

資源管理の下での欧州漁港・市場  
の管理運営について

2021年4月

東京海洋大学  
産学・地域連携推進機構  
中泉 昌光

本 文

# 本文目次

1. 背景と目的	1
2. 調査研究の内容と方法	1
3. 現地調査日程と調査先	2
(1) ノルウェー	2
(2) ポルトガル	3
(3) 英国	4
(4) イタリア	5
(5) デンマーク	7
(6) フランス	9
4. 調査結果	12
4.1 欧州各国の水産業の特徴	12
(1) 漁業・養殖生産と貿易	12
(2) 漁船勢力	15
4.2 漁港・市場の配置・構造と陸揚げ・販売・搬出（漁港別事例）	19
4.2.1 ノルウェー浮魚販売組合	19
(1) 浮魚販売組合の概要	19
(2) 販売（漁獲・入札予定情報→入札→決済）	20
(3) 情報の提供・公開	22
(4) 水産加工会社Pelagia AS	23
(5) 水産加工会社Brødrene Sperre AS	26
(6) 水産加工会社からの輸出ルート及び輸送機関	27
4.2.2 ペニシェ（ポルトガル）	28
(1) 漁港の概要	28
(2) 市場の配置と利用	28
(3) 陸揚げ・販売・搬出（輸送）	29
(4) 衛生管理・品質管理	32
(5) 魚箱	32
4.2.3 ラーウィックとスキャロウェイ（英国・シェットランド）	34
(1) 漁港の概要	34
(2) 陸揚げ・販売・搬出（輸送）	34
(3) 衛生管理・品質管理	39
(4) 新漁港・市場整備計画	41
4.2.4 ピーターヘッド（英国・スコットランド）	42
(1) 漁港の概要	42
(2) 陸揚げ・販売・搬出（輸送）	42
(3) 品質向上の指導	45
(4) 新漁港（市場）への移転	45

4.2.5	ペスカーラ（イタリア）	46
	(1) 漁港の概要	46
	(2) 陸揚げ・販売・搬出（輸送）	47
	(3) 衛生管理・品質管理	50
	(4) 販売の効率化	51
	(5) 魚箱の販売	52
	(6) 情報提供・公開	52
4.2.6	テューボルン（デンマーク）	54
	(1) 漁港の概要	54
	(2) 市場の配置と利用	55
	(3) 陸揚げ・販売・搬出（輸送）	56
	(4) 衛生管理・品質管理	60
	(5) トレーサビリティの確保	61
	(6) 持続可能な漁業	61
	(7) 水産加工会社Wellfish	62
	(8) 水産加工会社TripleNine Fish Protein A/S	63
4.2.7	スカーイェン（デンマーク）	66
	(1) 港の概要	66
	(2) 市場の配置と利用	67
	(3) 陸揚げ・販売・搬出（輸送）	68
	(4) 衛生管理・品質管理	73
	(5) トレーサビリティの確保	74
	(6) 持続可能な漁業・MSC漁業認証 CoC認証	75
	(7) 水産加工会社A/S Læsø Fiskeindustri	75
4.2.8	レ・サーブ=ドロンヌ（フランス）	77
	(1) 港の概要	77
	(2) 市場の配置と利用	78
	(3) 陸揚げ・販売・搬出（輸送）	78
	(4) 衛生管理・品質管理	83
4.2.9	ロリアン=ケロマン（フランス）	84
	(1) 港の概要	84
	(2) 市場の配置と利用	87
	(3) 陸揚げ・販売・搬出（輸送）	87
	(4) 魚箱の管理	93
4.2.10	ブローニュ=シュル=メール（フランス）	95
	(1) 港の概要	95
	(2) 市場の配置と利用	98
	(3) 陸揚げ・販売・搬出（輸送）	99
	(4) 情報の提供・公開	103
	(5) 魚箱の洗浄・保管	103
	(6) 地元の小型漁船による陸揚げと直販	103
	(7) 水産加工場Corrue Deseille	104

4.3 漁港・市場の機能分担、配置、規模、構造と利用（国別）	106
(1) 英国	106
(2) ポルトガル	107
(3) イタリア	110
(4) デンマーク	111
(5) フランス	114
4.4 漁港・市場における電子化	119
(1) Pefa Online Trading System	119
(2) e-fish	127
(3) ポルトガルにおける電子化	134
(4) 英国における電子化	135
(5) イタリアにおける電子化	136
(6) デンマークにおける電子化	139
(7) フランスにおける電子化	140
4.5 漁港・市場における陸揚げ・販売の動向（国別・漁港別）	143
(1) ノルウェー	143
(2) ポルトガル	145
(3) 英国	149
(4) イタリア	157
(5) デンマーク	158
(6) フランス	165
5. 考察：欧州の漁港・市場の特徴と我が国との差違	171
(1) 社会的ニーズと責務に対する対応	171
(2) 漁港・市場の管理・運営体制	176
(3) 漁港・市場の機能分担（拠点港・市場の役割）	178
(4) 漁港・市場の配置・構造	180
(5) 販売業務の電子化	184
(6) 衛生管理・品質管理	190
(7) 資源管理・トレーサビリティ	192
(8) 持続可能な漁業・エコラベル	195
(9) 情報提供・公開	198
(10) 魚箱の規格化と管理	199
6. 最後に	203

# 参 考

## 参 考 目 次

1. ポルトガル	1
1.1 ドカペスカ社	1
1.2 セシンプラ	9
1.3 セトウバル	14
1.4 マトジーニョス	16
1.5 リベイラ市場	21
1.6 ポルトガル海洋気象研究所	22
2. 英国	23
2.1 スクラブスター	23
2.2 フレーザーバラ	24
2.3 ニューリン	24
2.4 ブリクサム	25
2.5 プリマス	25
3. イタリア	26
3.1 ジュリアノーヴァ	26
3.2 チヴィタノーヴァ	32
3.3 アンコーナ	36
3.4 アンツィオ	44
3.5 サン・ベネデット・デル・トロント	48
3.6 オルトーナ	49
3.7 リヴォルノ	50
3.8 トラーパニ	51
3.9 キオッジャ	52
3.10 モルフェッタ	53
3.12 ミラノ卸売市場	58
3.13 生物資源及び海洋バイオテクノロジー研究所	60
4. デンマーク	62
4.1 ギルライエ	62
4.2 ヴィデ・サンディ	70
4.3 トースミンネ	71
4.4 ハンストホルム	71
4.5 ヒアツハルス	78
4.6 ストランドビュー	85
4.7 グレーノ	86
4.8 エスビヤウ	86
5. フランス	88
5.1 ラ・ロッシュェル	88
5.2 コンカルノー	94
5.3 ギルヴィネック	103
5.4 サンゲノレ	109
5.5 ロクテュディ	113
5.6 グランヴィル	115
5.7 ドアルヌネ	118
5.8 ランジス国際市場	120